

第 1 章

総 論

1 計画策定の趣旨

本市では、これまで上下水道事業の将来のあるべき姿と目指すべき方向性を明らかにするため、平成22年度に「宮崎市上下水道事業マスタープランみやざき水ビジョン2010」（計画期間：平成22年度（2010年度）から令和元年度（2019年度））を策定しました。

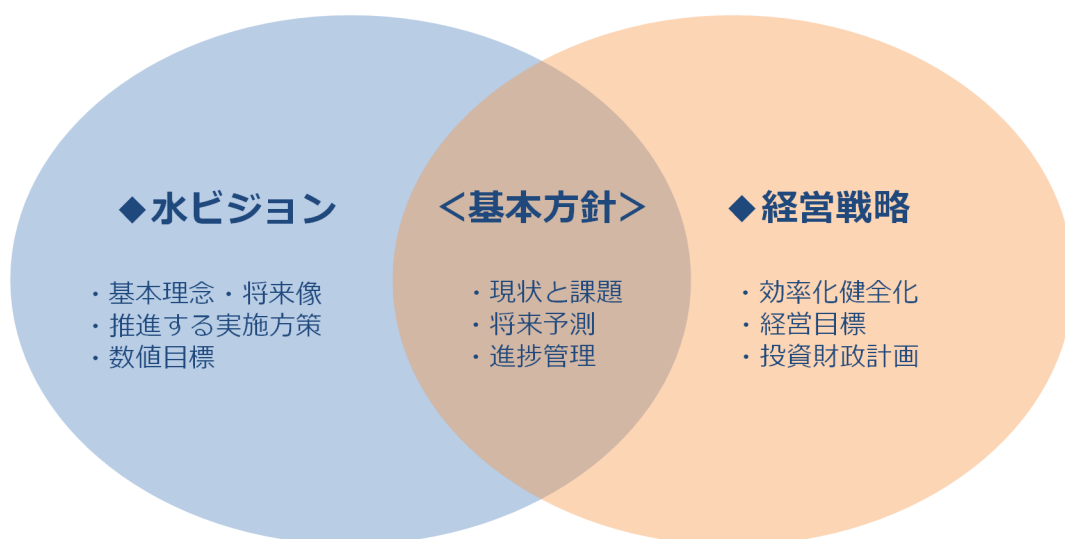
計画策定から10年が経過し、この間、節水型社会の進行や給水人口の減少に伴う料金収入の減少、経年による施設の老朽化など、上下水道事業の環境は大きな変化を迎えました。さらには、東日本大震災や熊本地震などの自然災害の経験を踏まえ、南海トラフ巨大地震に備えた危機管理対策も求められています。

このような背景のなか、厚生労働省は、これまでの「水道ビジョン」の改訂ではなく、来るべき時代に求められる課題に挑戦するため「新水道ビジョン」を平成25年に策定するとともに、国土交通省においても「新下水道ビジョン」が平成26年に策定されました。

将来にわたり本市の水道事業、公共下水道事業、工業用水道事業及び農業集落排水事業を安定的に持続し、次世代に発展的につないでいくためには、こうした環境の変化を的確に捉え対応していく必要があります。中長期的視点に立った事業の在るべき姿を定めた上で各施策を計画的に推進することが重要です。

そこで、将来を見据えた今後の事業展開の指針とするため、令和2年度（2020年度）から令和11年度（2029年度）までの10年間を計画期間とした『みやざき水ビジョン2020』を策定しました。

『みやざき水ビジョン2020』と『宮崎市上下水道局 経営戦略』の関係



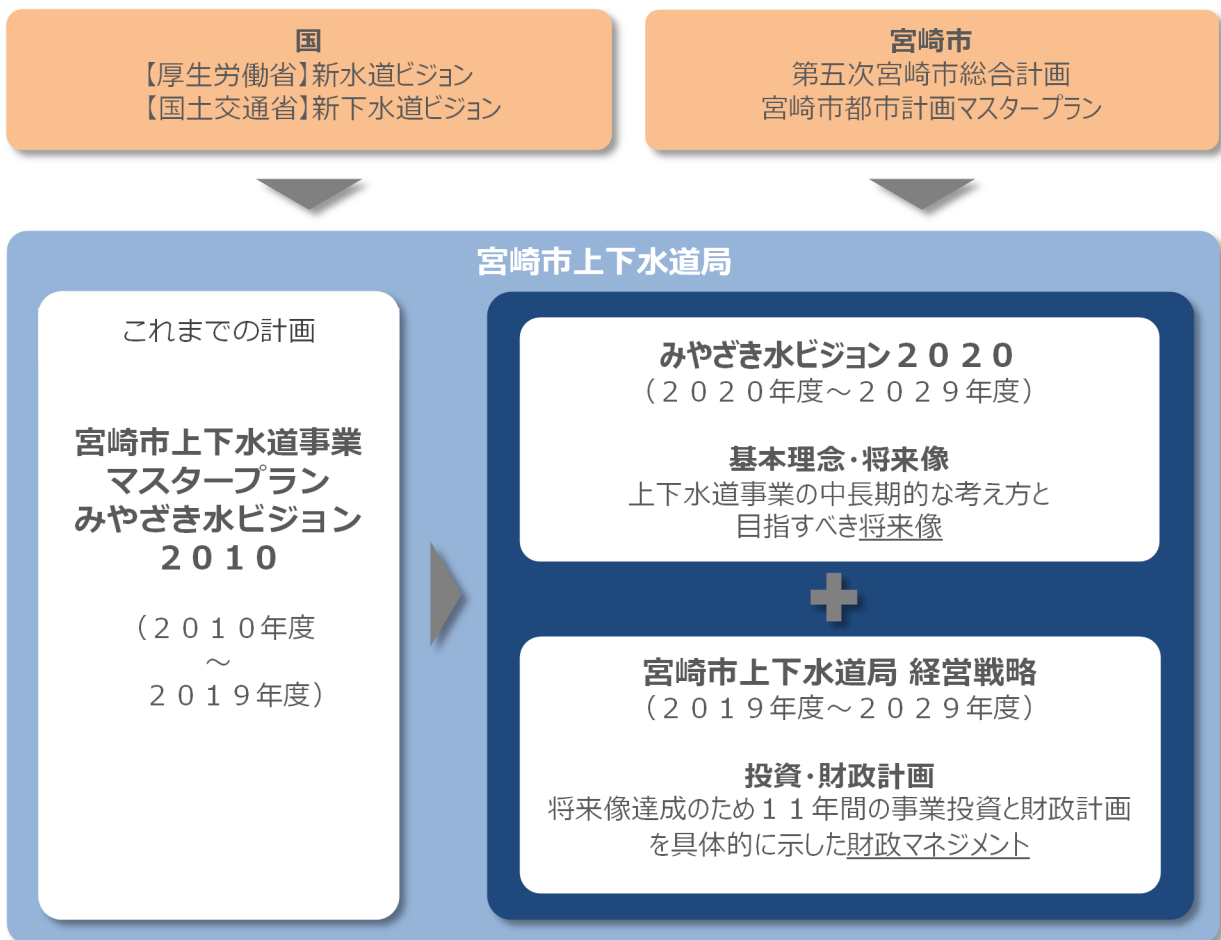
2 計画の位置づけ

『みやざき水ビジョン2020』は、今後10年間の本市の上下水道事業が進むべき方向性を明らかにするものであり、「基本理念」や将来を見据えた「目指すべき将来像」を設定し、これを実現するための「実施方策」を定め、取りまとめたものです。

また、本計画は、本市の上位計画である「第五次宮崎市総合計画」や「宮崎市都市計画マスタープラン」とも連携しつつ、厚生労働省が示した「新水道ビジョン」、国土交通省が示した「新下水道ビジョン」の考え方を踏まえて策定したものであり、本市の上下水道事業の根幹を成す計画として位置づけるものです。

なお、平成30年度に策定した『宮崎市上下水道局 経営戦略』は、本計画に定めた将来像を達成するために11年間の事業投資と財政計画を具体的に示した中長期的な経営の基本計画であり、財政見通しを踏まえながら優先度や重要度を考慮し、効率的かつ効果的に事業を実施していくことから、本計画の財政マネジメントとして位置づけ、常に整合を図ります。

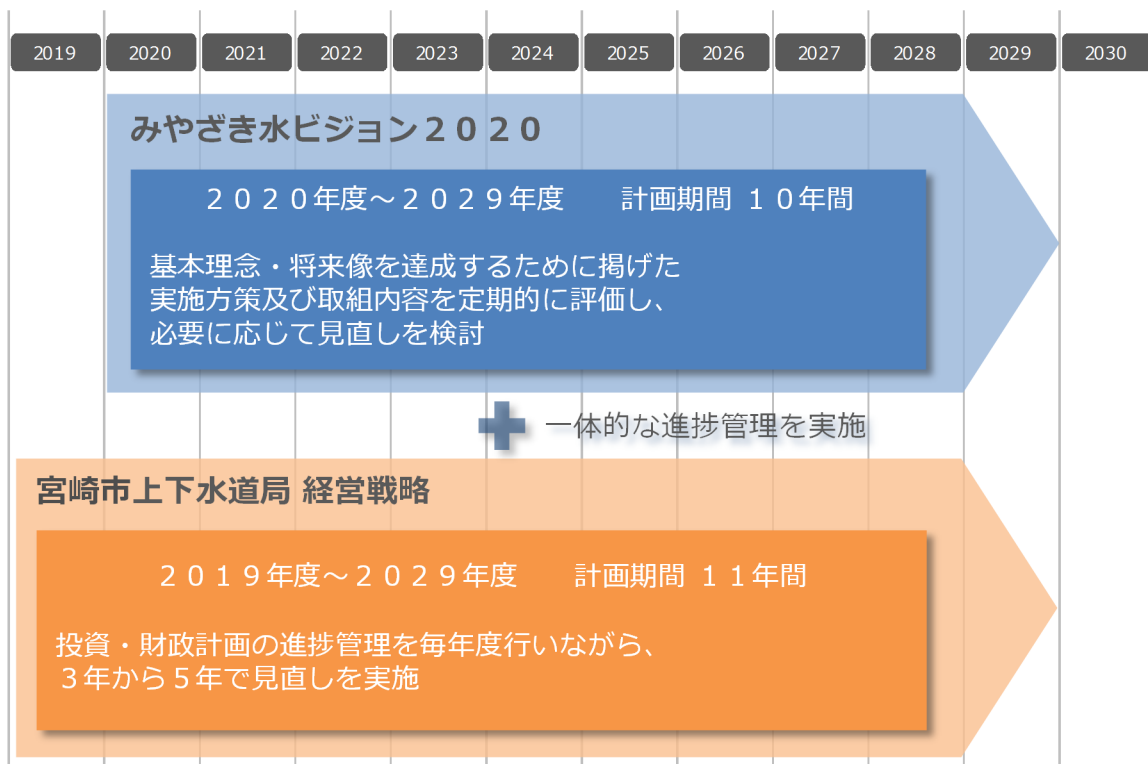
みやざき水ビジョン2020の位置づけ



3 計画期間

計画期間は、令和2年度（2020年度）から令和11年度（2029年度）までの10年間とします。

見直しについては、PDCAサイクルを活用しながら、計画期間中の実施方策や取組内容に大きな乖離が生じた場合は改訂する予定です。



PDCAサイクルのイメージ

